

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人愛生会	代表者	理事長本田眞一	法人・事業所の特徴	グループホームと併設されていることにより、行事やレク活動だけでなく、夜勤などの職員体制も協力することができ、相乗効果が生まれている。また、利用者も小規模多機能から始まり、グループホーム入居へ繋げていけるなど、同一施設の強みが活かされている。さらに、同法人の特別養護老人ホームへ繋げていける安心感を提供している。					
事業所名	小規模多機能居宅介護なごみ	管理者	園田健二							

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	3人	0人	0人	1人	2人	3人	0人	8人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	なるべく全職員の意見を聞いていけるよう、取り組みを早く開始することと、ミーティングや会議を1回だけでなく、複数回開催して、より多くの参加機会を設ける。	日々のミーティングは短時間ながら毎日確実に実施出来ている。会議等で同一内容を複数回開催は出来ておらず、議事録による共有で対応している。	全体的に評価のための目標設定になりがちで、そのために取り組みが進みにくいのでは。自発的に課題を見つけ目標設定してみは。	自己評価に関する話し合いを、皆が参加しやすい日中の時間帯に複数回に分けて実施し、より多くの職員が文書でなく生の声を届けられるようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	コロナによる閉鎖的取り扱いは終了している。地域との繋がり強化を意識して、行事参加や周知、地域交流スペースの利用促進を考えていく。	行事参加という視点では、地域の行事イベントへの参加は増えたが、地域交流スペースを活用した行事は中々出来ず、職員向け研修に外部講師を招くことのみだった。	清掃は行き届いていて清潔な印象。また玄関横に折り紙による装飾が施されており、明るい雰囲気になっている。	来客用の面談スペースに備品が多く置かれているのを整理し、すぐに対応できる状態にする。同時に、地域交流スペースの利用希望にも応えていけるよう、整頓を心がける。
C. 事業所と地域のかかわり	行事に参加するだけでなく、地域に知って頂ける取り組みを意識する。 地域包括支援センター主催の講習会では会場提供だけでなく、スタッフも運営に参加していく。他に夏祭りの開放も検討。	行事への参加は進んできており、職員が役割を持つこともあった。が、なごみへ来ていただく取り組みは進んでおらず、なごみを会場とした研修会も職員向けだった。	オレンジカフェへの参画を活かして、なごみをもっとアピール出来たら良いのでは。利用促進だけでなく、相談拠点としての認知度を高めていくチャンスでは。	地域行事に参加した際に、なごみの名前を印象付けられるよう、施設名を大きく表示したり、挨拶を通して存在を浸透させていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	・インテーク時に関わりのある機関や人の把握を行い、その利用を継続支援する。 ・距離のある家族でも協力を引き出せるよう、声掛けする。	もともと関りのある方との関係性を継続することは一部で出来ている。新規に近隣住民の方などの協力を取り付けることは今後の課題となる。 家族との関係性でも、従来からの関係を維持するのみで、距離のある家族とは距離が残ったままとなってしまった。	直接、契約関係のない近隣住民でも緊急性の高い際には支援を受けられるようにして欲しい→介護保険の対象になる方であれば、緊急性が認められればすぐにでも支援する。	受診対応や買い物支援などを中心に、ご家族を含め地域の力を使った幅広い支援を行う。結果として、なごみ職員の負担軽減を図り、より多くの支援を行っていく体制づくりに繋げていく。

E. 運営推進会議を活かした取組み	内容に事例紹介も入れるようにして、取り組みだけでなく、小規模多機能やなごみの機能を理解して頂くきっかけとする。	主に投薬ミスにおける事故報告として、いくつか事例を挙げたことはあったが、総合的な支援としての事例紹介や検討はおこなえていない。結果として、小規模多機能の役割・長所が伝わりにくくなってしまった。	巡回時の指摘事項が改善され、サービスに活かされている場面を見られた。 会議の位置づけが良く分からない。結びつきを強めるきっかけとして、積極的に活用して良い。	利用者、ご家族の参加が途切れているため、再開できるよう、打診をしていく。
F. 事業所の防災・災害対策	B C P訓練と合わせ、避難や消火といったその場の対応だけでなく、その後の場面を想定して行っていく。	B C P訓練の実施により、数日先の勤務予定を組む場面まで行えた。また、消費期限の近い非常食を活用し炊き出し訓練も行い、被災後の生活の一部を実践できた。	なごみの立地は水害などのリスクがなく地震想定だけで済むのは恵まれている。 その分、夜間想定など違った内容でも訓練を進めていくべき。	運営推進会議などを活用し、外部の方にも参加しやすい形で防災訓練を実施し災害時に協力していただける体制を作っていく。